



体育大会 今年のテーマ

「一意奮闘」～ 燃えろ 深中魂 ～

5月14日（日）に、令和5年度の体育大会を実施しました。今年は新型コロナウイルスによる制限もなくなり、保護者の皆様や多くの来賓の方々にも参観していただきました。前日に雨が一日中降り続き心配されましたが、天候が回復し穏やかな晴天のもと本番を迎えることができました。

100m走では、ハチマキをなびかせながらゴールに向かって一生懸命に走り抜ける姿が見られました。また、全員リレーでもそれぞれの組がリレーの走順やバトンパスを工夫していたため、途中で順位が入れ替わり、最後のゴールの瞬間まで目が離せないレースでした。

学年ごとに行われた団体種目も、紅白がそれぞれに工夫を凝らしている様子うかがえました。1年生の五色の綱引きは、最初にどの色の綱をめがけて走るのかが、大事な作戦のようでした。2年生の長縄は、縄の回し方や縄を飛ぶときのリズムなど、どちらもミスが少なく練習時より回数が増えていました。3年生の二人三脚やムカデ競争等色々な種目をつなげていく競技では、ぴったりと息を合わせその上速いスピードで走るのが難しく、練習を重ねた様子うかがえました。

そして、生徒たちが時間をかけて練習を積み重ねてきた全学年によるソーラン節は、3年生を中心にきびきびとした動き、列ごとに時間差をつけた動き、隊形移動変化など、中学生らしくさわやかで観覧者を魅了する演技でした。そのためか、「もってこい」のお声がかかり、生徒たちもその声に精一杯こたえ最後まで頑張りました。





体育大会の目的は、安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養等です。本番を迎えるための準備段階で、級友との協力や意見の衝突、必要性を認識した合意形成などの経験を通して、学年集団が成長しています。行事を終えて、単に楽しかっただけに終わらず、今後の学校生活や次年度の体育大会で、自分はどう動けばいいのか、深中生はそこまで考え、行動に生かすことができると期待しています。

お知らせ

蓄積型学生（学習支援実習）の受け入れについて

長崎大学教育学部の2年生の2名（男女それぞれ1名）の生徒の実習が始まりました。女性の実習生は深堀中学校の卒業生ですので、母校での実習は感慨深いものではないでしょうか。

早速、体育大会から実習が始まり、準備や後片付け、生徒と一緒に競技の一部にも参加しました。今後、授業参観や中総体にも生徒の支援者として実習を積み重ねていきます。実習時間は短いのですが、生徒たちとの交流を深めてほしいと思います。

中学1年生 被爆遺構巡り

1年生は平和教育の一環として、被爆遺構巡りを中心に、戦争や原爆の悲惨さ、生命の尊重について学びます。5月31日（水）に、平和案内人の方にガイドをお願いし、午前中は班別学習で山里小周辺や坂本地区等に分かれて見学や取材に取り組みます。午後からは原爆資料館や追悼平和祈念館の見学を行います。小学生のときも学習している内容の一部は含まれていますが、平和フィールドワークが今後の平和学習の深まりにつながります。